



仕事も家庭も自分らしく

Q

世界経済フォーラムによる「ジェンダー・ギャップ指数2024」において、日本の順位は146か国中何位でしょう？

※ジェンダー・ギャップ指数は、国の経済・教育・政治参画などについて男女平等レベルを数値化したものです。

ア.118位 イ.56位 ウ.12位

上位の方が
男女平等レベルが
高いよ！

(出典：内閣府男女共同参画局HP「男女共同参画に関する国際的な指数」
https://www.gender.go.jp/international/int_syogaikoku/int_shihyo/index.html)

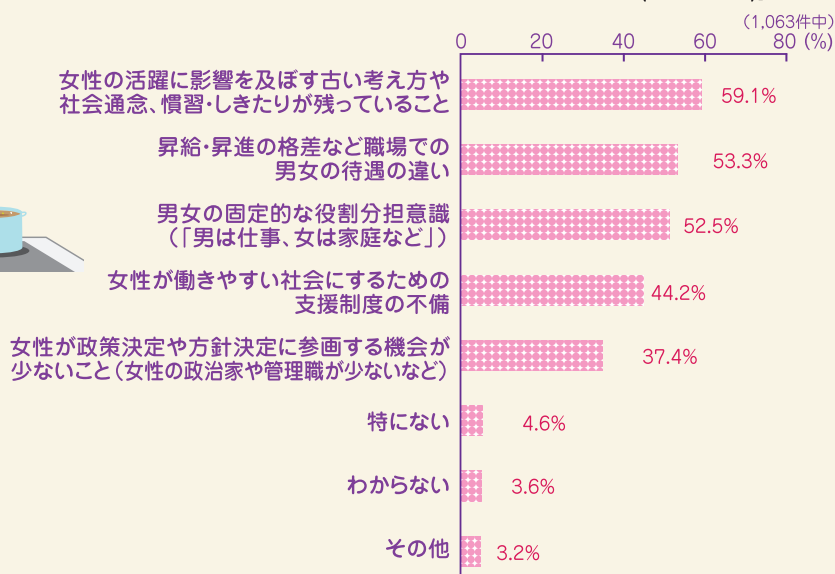
男女の役割分担を考えてみませんか？

右下のグラフは、「女性の人権上、特に問題があると思うこと」という問いに対する回答です。女性に関する人権問題については、「女性の活躍に影響を及ぼす古い考え方や社会通念、慣習・しきたりが残っていること」が59.1%と6割近くを占め最も高く、次いで「昇給・昇進の格差など職場での男女の待遇の違い」、「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭など」）」となっています。



女性の人権上、特に問題があると思うこと

明石市「人権・ジェンダー平等に関する市民意識調査(2025年1月)」より



「ジェンダー」とは、社会的・文化的につくられた性別のことです。しかし、今の社会では、男女の固定的な役割分担意識が残っており、個人の希望や能力ではなく、「男だから」「女だから」という無意識の偏見によって生き方や働き方の選択肢や機会が決められてしまうことがあります。

そこで、一人ひとりの人間が、性別にかかわらず、平等に責任や権利や機会を分かちあい、あらゆる物事を自分で決めることができる「ジェンダー平等」の実現が必要です。

性別の固定観念にとらわれることなく、女性も男性も個性と能力を十分に発揮し、輝ける社会をつくっていきましょう。

「女の子はやさしく」「男の子は泣いちゃダメ」というような固定観念は幼少期～青年期に土台が形成されると言われています。そこで明石市では、将来の社会におけるジェンダー平等につなげるために、市立学校の児童生徒を対象としたジェンダー教育・研修を実施しています。

また、女性にかかる過度な負担を軽減し、女性の働きやすさにつなげるために、男性の家事育児参画意識の向上を図るイベントを開催しています。